



最近ちょっとハッピーなヨウコです。( ^ o ^ ) 今、2ヵ月の選択で病理を回っています。学生の時、ツマンナイと思ったのに、結構面白いんです。( ^ o ^ ) 研究もたくさんやってて、いいなあ~と思ったりして、今日は、私と同じクラシック好きの研究室の先輩と、チャイコフスキーのバイオリン協奏曲を聞きました!( ^ . ^ ) ♪感動! チケット高かったけど、オーケストラがこの街にくるのも久しぶりだし、ホ~ントよかった!! ( o ^ ^ o ) 明日から、また頑張れそうです! それでは、おやすみなさい、ドクター Hisa. ... ( ' o ` ) ヨウコより

このコーナーでは、カナダ・トロント大学へ臨床指導医研修を受けに留学中の Dr.Hisa と新米研修医 Dr.ヨウコとの交換 E-mail をご紹介します。

### ドクター★Hisa

長崎医療センター・教育研修部に所属。

### Dr. Hisa

He is a doctor from Japan currently studying Canadian primary care and medical education system. He enjoys having many kinds Beers and jogging when it's -20 °C outside.

>最近ちょっとハッピーなヨウコです。チャイコフスキーのバイオリン協奏曲を聞いてきました! 感動! 音楽はいいよね。人をハッピーにするしね。

なぜ、この人は楽しそうに、ハッピーに話ができるんだろうか。それが、音楽をこよなく愛する Taiichi への第一印象だった。もう1年以上前になるが、アルツハイマー病の基礎リサーチの講演会に僕は数名の研修医と一緒にいった。どの科でも、週に半日か1日のアカデミックデイがある。学生・研修医は義務として、これに参加して勉強しなければならない。内容は ACLS や抗生剤の使い方の基本から最先端の研究までバラエティーに富む。その日は、難しい基礎リサーチの話題であったが、研修医から活発な質問がなされた。的外れな質問も多かったのだが、数名のリサーチフェローや教官が面白おかしく、若い人に興味を持ってもらおうと熱心に質問に答えていた。Research Mind を育てようとする雰囲気を感じた。その中に、日本人リサーチフェローの片山泰一氏 (写真)

がいた。講演会の後、彼に話しかけると、僕達は同じ歳で、互いに二人の娘を持ち、教育に関心があり、英語で苦労し、ビールを愛しているという共通点が確認され、「それじゃあ」ということなり Yonge street の Beer Bar へ向かった。



(トロント大学近くのオンタリオ州議事前)

>感動! チケット高かったけど、オーケストラがこの街にくるのも久しぶりだし、ホ~ントよかった!! 自分をリフレッシュさせたり、楽しくさせるものにお金を使う、そのために働く、かっこいい!

店に入るとラフマニノフのピアノ協奏曲第2番が流れていた。「いい曲でしょう、音楽は英語を超えた共通語と思うんです。」と、Taiichi は楽しそうにいう。英語を話さない、話せない多くの移民がいるトロントでは、音楽や芸術活動への参加はとても簡単にできる。日本の半分以下の値段のチケットで、気軽に質の高いコンサートやオペラが見られる。日本では小さな子供を入れないホールもあるが、この街では逆に子供達を優遇して Music mind

を育てようとしている。また、学校や市が楽器を無料で子供に長期間貸し出したり、様々なタイプの芸術系のアクティビティーがカリキュラムにある。「日本と違うのは、学問とか訓練としての音楽教育じゃなくて、楽しむことを基本に、その背景とか歴史を勉強する教育だと思いますネ。」Taiichi はエール(≡生ビール)をオーダーした。「ここでは、いろんな種類のエールが楽しめますよね。」Taiichi. 僕は笑顔で「それだけが、楽しみです。」

>研究もたくさんやってて、いいなあ~と思ったりして。長い医者人生の中で、一度リサーチをやるのもいいと思うよ、ものの見方が変わるかも。

「朝から晩まで、ほとんど休みもなく研究室に閉じこもり、結果を出さなければならぬプレッシャーと戦ってましたね、皆そうでしたから当たり前と思ってました。」彼は日本での研究生活を振り返る。彼の研究歴は長い。薬学生時から研究室へ入り、大手製薬会社の最先端の研究を手がけ、そして大学の分子生物学者。Taiichi は先輩から手取り足取りの技術指導を受け、日本式の典型的な体育会系の訓練のような、ノルマを課せられた仕事を続けてきた。それは臨床系の僕も同じで、多かれ少なかれ日本人の誰もが同じだったかもしれない。そして今、北アメリカの教育や仕事のやり方を僕達は体験している。「カナダでも結果を

求められることは同じですが、個人のやり方を尊重し、個人の裁量が大きいですね。」彼のボス、Paul Fraser はアミロイド蛋白研究の世界的な第一人者だが、「教育者としても凄い。私が間違いに気づき、それを乗り越えるまで待つ姿勢と、的確にアドバイスし修正する能力。そしてやる気にさせる雰囲気づくり。」若い研究者のリサーチマインドをいかに育てるのか? 実はトロント大学では臨床系だけでなく研究系の教官も医学教育のワークショップなどへ積極的に参加して、この命題を議論する。次の優れたリサーチャーを育てることは、大きな国益に結びつく。

>病理を回ってます、結構面白いんです。臨床の中で、面白いことや疑問に思うことを、リサーチしたら、ドキドキする瞬間にであうかもしれないヨ。

「若い先生は一度何かのリサーチをするべきだと思いますヨ。生命現象を明らかにすることはどういうことか肌で感じて欲しいし、それは医者の臨床のキャリアを邪魔するものではないと思う。」Taiichi の2杯目はバスという赤ビール。リサーチは競争である。だから臨床系と研究系を分けたアメリカのシステムの方が効率的で強みがある。カナダのシステムは、アメリカに近いが、はっきりしたラインはない。だから、家庭医の中でさえ、リサーチャーがいる。ただ、日本のように医師が臨床をやりながら、ひとりでは何から何まで準備して研究も必死で頑張るといのは、非効率的で非生産的だとカナダ人には映る。Taiichi は言う。「日本のリサーチがそこまで遅れていることはないと思います。細かい点では進んでいる分野も多いと思いますネ。ただ、この病気をどうするか、大きな命題に対する北米の論理的思考とチャレンジ精神は学ぶべきでしょう。」未知のものへ恐れずに向かう開拓者精神に基づくリサーチマインドを学び、彼は昨年日本へ帰っていった。

備して研究も必死で頑張るといのは、非効率的で非生産的だとカナダ人には映る。Taiichi は言う。「日本のリサーチがそこまで遅れていることはないと思います。細かい点では進んでいる分野も多いと思いますネ。ただ、この病気をどうするか、大きな命題に対する北米の論理的思考とチャレンジ精神は学ぶべきでしょう。」未知のものへ恐れずに向かう開拓者精神に基づくリサーチマインドを学び、彼は昨年日本へ帰っていった。

>明日から、また頑張れそうです! その調子! どんな時でも、明日から頑張ればいい! 今日の失敗は、明日のチャレンジだ!

久しぶりに、日本の Taiichi からメールが届いた。今年から教育者としての仕事が多くなりそうだ。「若い人に、まったく新しい未知の選択肢を与えられる指導者になりたいですね。」僕は彼の幼い頃の話思い出した。Taiichi は近所のかかりつけの医者からよく言われた。「薬の研究は多くの人を助けることが

できる、面白いぞ!」今度は、どうやら彼が若い人を導く番になったようだ。日本とカナダの良い所をミックスさせた新しい教育を開拓してくれることを願い返事を書いた。「おめでと、僕は君の仕事を引き継ぎ、新しい Beer Bar を開拓している!」

